

# 古民家新聞

匠を感じる住まい

vol. 37

青田を渡る風も心地よく、蛙の大合唱も聞こえる時期となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。全国古民家再生協会では、去る3月8日に、第八回全国会員大会が東京都のホテルグランドアーク半蔵門にて開催されました。

株式会社ジェイティービー代表取締役会長 田川博己氏ならびにJTIC SWISS 代表 山田桂一郎氏をお招きした基調講演により、外国人観光客招致のことも考慮しどのように古民家活用やまちづくりを行っていったらよいか等を考える良い機会となりました。今回は、中部地区大会が、6月17日に愛知県半田市の半六庭園にて開催されます！ 会員でない方も参加することができますので、当協会にご興味のある方はぜひお問い合わせください。



建具屋さんが手作りした木製の簾かけ

## 風流な簾で、心地よい夏

すだれ

冬が長かったこともすっかり忘れてしまうほど、あつという間に暑くなってきましたね。

そこで今回は、すだれ簾を特集します！

簾は日本現存の最古の和歌集、万葉集の歌にも登場し、古くから夏の日本家屋には欠かせないものでした。簾は竹製のものが多く、葦よしずなどでできた立て掛けるタイプのものは葦よしずと呼ばれています。

住宅を新築する際に2020年から義務化される省エネルギー性能においても、「夏に室内の温度が上がる最も大きな要因が外部からの日射熱」であり、その日射熱を減らす外付けルーバー付きのサッシなどの新製品が各メーカーから発売されています。外付けルーバーに匹敵する簾は外観も日本家屋にぴったり、性能も理にかなっています。

簾の取り付け方は、マグネット性の簾フックがインターネットでも1つ300円前後で発売されていますし、写真のように本格的に簾かけを建具屋さんで作ってもらうのも風流でかっこいいですね。簾のある夏を過ごすのはいかがですか。

お問い合わせは

一般社団法人 三重県古民家再生協会

〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6 TEL059-366-3833 FAX059-361-1717 mail info@tap-s.com

kominka-mie.org